

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	18人	算数	18人	理科	18人
第5学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

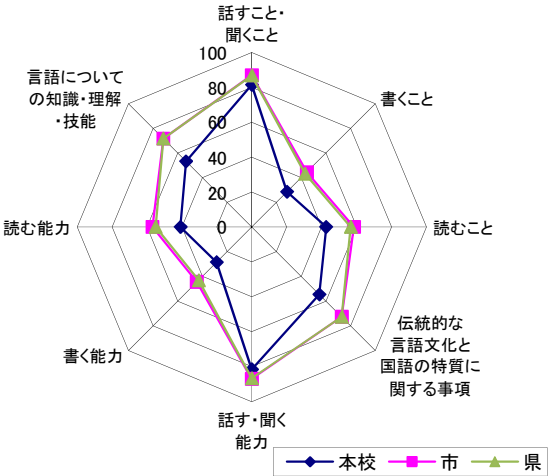
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.5	87.0	86.7
	書くこと	28.5	44.5	43.1
	読むこと	42.6	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.6	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	81.5	87.0	86.7
	書く能力	28.5	44.5	43.1
	読む能力	40.9	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	53.3	71.7	71.7



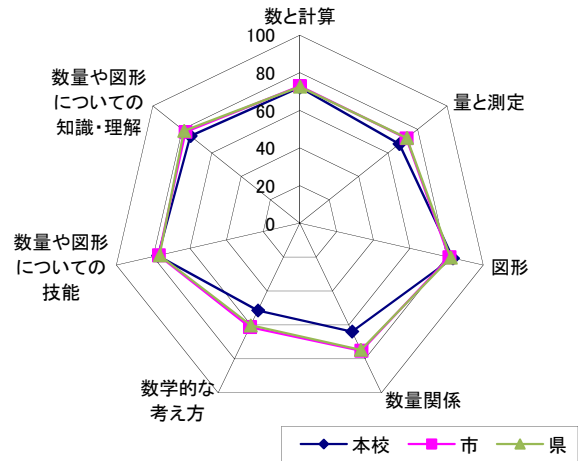
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●話し合いの内容を聞き取る問題で、共通点や相違点を整理して聞くことができるかの問いでは、県の正答率とほぼ同じだが、話の中心に気をつけて聞き取る問題では県の正答率より10ポイント以上低いものもあり、課題が見られる。	・話を聞く際には、話の中心になることを気をつけて聞くように声をかけ、重要な点を聞き逃さないようにするため、キーワードに注意したり順番を意識して聞いたりするなど指導をする。
書くこと	平均正答率は、県、市の平均を大きく下回っている。 ●報告書の作成の問題では、目的に応じて必要なことを調べる問題で県の正答率を10ポイント、書こうとする中心を明確にし、記述する問題で25ポイント以上下回っていて課題がある。 ●お礼のお手紙を適切な順序と言葉遣いを書き直す問題でも、県の平均を10ポイント以上下回っており課題がある。	・身近なことを短い文で表すことを繰り返し練習し、文を書くことへの抵抗感は無くしたい。 ・報告書の構成について再確認し、相手を意識し、必要なことをしっかりと伝えられる文を書くことができるように繰り返し指導する。
読むこと	平均正答率は、県、市の平均を大きく下回っている。 ●説明文の内容理解の問題では、文と文のつながりに注意して文章を読むこと、目的や必要に応じて文章の内容を読むこと、中心となる語や文をとらえることのすべての項目で、県の正答率を10ポイント以上下回っており、説明文の読み取りに課題がある。 ●物語の内容理解の問題では、登場人物の気持ちを想像して読む問題で、県の平均を10ポイント程度下回っており、物語の読み取りにも課題がある。	・説明文では、段落ごとに最も伝えたいことなどを確認するとともに、段落の構成やキーワードとなるような言葉に注目していくように指導する。 ・物語文では、登場人物の気持ちを文の中から探し出し、自分の言葉で説明するような活動をさらに増やす。 ・日常における読書を推奨していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県、市の平均を大きく下回っている。 ●漢字の読み書きの問題では、第3学年での漢字の読み書きも第2学年での漢字の読み書きも、県の平均を下回っている。特に第3学年でも漢字の読みは30ポイントも下回っている問題があり、課題がある。 ●言葉の学習の問題では、ローマ字の問題や主語と述語の問題で約10ポイント、漢字のへんやつくりなどの構成の問題では25ポイントも県の平均を下回っており、課題がある。	・漢字の読み書きについては、繰り返し指導をしていく。4年生での新出漢字だけではなく、これまでに学習した漢字についても練習するようにしていきたい。 ・言葉については、これまで以上に辞書を使って自分で調べる活動を増やし、たくさんの語句に触れるような機会を設けたい。 ・ローマ字の学習については、家庭学習等で繰り返し練習するようにしたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.2	72.9	72.6
	量と測定	67.6	72.4	72.6
	図形	83.3	81.4	82.1
	数量関係	63.9	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	51.4	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	77.4	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	74.4	77.8	78.8



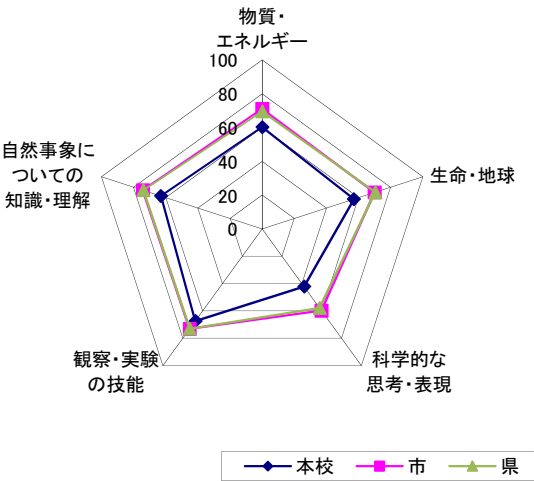
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の正答率とほぼ同等である。 ○簡単な四則計算では県の平均とほぼ同等か、平均を上回っていた。 ●分数の仕組みを理解しているかの問題で10ポイント、数直線上に示された分数の表し方についての問題では20ポイント県の平均を下回っており、分数の学習に課題がある。 ●わり算の余りを切り上げて処理する問題について判断し、その理由を説明する問題では15ポイント以上、映画の代金からどちらの映画を見たかを判断し、その理由を説明する問題では10ポイント以上下回っており、言葉に言い表すことに課題がある。	・基本的な計算はできているので、それらについては継続して学習を進めたい。 ・分数についての理解が低いので、家庭学習を中心に復習をしていける機会を設けたい。 ・自分の考えや計算のやり方を説明することが苦手である。算数の授業の中で、友達に説明する機会や自分の考えをノートにまとめる活動を増やしていきたい。
量と測定	平均正答率は、市や県の正答率と比べ、やや下回っている。 ●時と時間の問題では、ある一定時間後の時刻を求める問題で、重さの問題では身近にあるものの重さを推察する問題で、15ポイント以上下回っている。	・時と時間や重さの問題など、日常生活の中でも身に付くであろう考えが定着していない。日常の様々な場面において、推測したり考えたりする活動を増やし、数学的思考を高めたい。
図形	平均正答率は、市や県の正答率をほぼ上回っている。 ○正三角形の定義の理解と二等辺三角形の作図では100%の児童が正答していた。 ●円の直径についての問題では、20ポイント近く県の平均を下回っており、課題がある。	・円についての学習が身に付いていないので、円の定義について改めて指導をしたい。また、様々な問題で練習をすることが大切である。
数量関係	平均正答率は、市や県を下回っている。 ●わり算の問題では文章問題を表した図を理解しているかの問題で25ポイント県の平均を下回っており、文章問題に課題がある。	・わり算についての理解が低い。4年生でのわり算の筆算の学習でも3年の内容まで戻って指導をしている。繰り返し練習する機会を設けたい。 ・文章を理解し、図に表わす学習をさらに進めていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.3	71.1	69.6
	生命・地球	57.1	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	42.2	59.8	57.8
	観察・実験の技能	67.4	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	63.0	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市、県の平均を下回っている。 ○光の性質の虫眼鏡で集めた光の明るさや温かさの違いが分かるかの問題、電気の通りの道の豆電球の明かりの付け方の問題では県の平均を10ポイント程度上回った。 ●ものと重さの問題では、体積が同じでも、種類によって重さが違うことを説明する問題で30ポイントも県の平均を下回った。 ●磁石の性質や電気の通りの道の問題では日常生活と関連付けて考えたり身近なものの様子から推測したりする問題で25ポイント下回っており、課題がある。	・どの学習においても、徹底されていない。基本的な知識を繰り返し指導していくことが必要。家庭学習などで3年までの内容についても、振り返ってほしい。 ・日常生活と結びつけて考えることを多く取り入れたい。日常の中でどのような形で磁石や電気が使用されているのか、その面白さを伝えることで学習の定着の手助けになるようにしたい。
生命・地球	平均正答率は、市、県の平均を大きく下回っている。 ●昆虫と植物の問題では、昆虫の生活場所、成虫の足の様子、植物のつくり、植物の育ち方の順序など基本的な問題においても、20ポイント以上下回っており、課題がある。 ●太陽と地面の様子の問題では、一日の太陽の動きの問題が20ポイント、影のできる向きから太陽の向きを問う問題で15ポイント県の平均を下回っており、課題がある。	・どの学習においても、徹底されていない。基本的な知識を繰り返し指導していくことが必要。家庭学習などで3年までの内容についても、振り返ってほしい。 ・昆虫や植物、太陽などについては、日々の生活で学べることが多い。4年生での学習をする中で、昆虫、植物、太陽の動きについては振り返ってほしい。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

＜4年学習や生活に関する質問＞

≪傾向及び今後の重点≫

○宿題についての項目、学ぶ意欲についての項目では、県の平均を大きく上回っていた。特に、「学校の宿題は、自分のためになっている」では100%の児童が肯定的に答えている。また、「勉強をしていて面白い、楽しいと思うことがある」「勉強していて不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の項目でも県の平均を20ポイント以上上回っている。

○自分自身のことや家族とのことの項目でも、県の平均を上回っているか、ほぼ同等程度であった。「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」「自分の良さを人のために生かしたいと思う」「将来の夢や目標をもっている」などの項目では20ポイント以上県の平均を上回っていた。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の項目では県の平均を20ポイント近く下回っている。学習のために進んで情報を集めようとする意欲が低く、図書資料やインターネットを利用する技能が身に付いていないことが分かる。自分で調べる意欲を高めるとともに、図書資料の利用方法やインターネットの正しい使い方などの指導を今後も続けていきたい。

●質問紙から分かることは、児童がとても意欲的であることだが、学力の結果から考えると児童の思いや意欲が結果につながっていないことが分かる。これからの指導の中で、児童の意欲や関心を損なわないようにしながら、学力を高めていくことが大切だと考えられる。そのため、毎日の授業の中で、褒め、繰り返し練習することを大切にしていきたい。

＜4年教科等に関する意識＞

≪傾向及び今後の重点≫

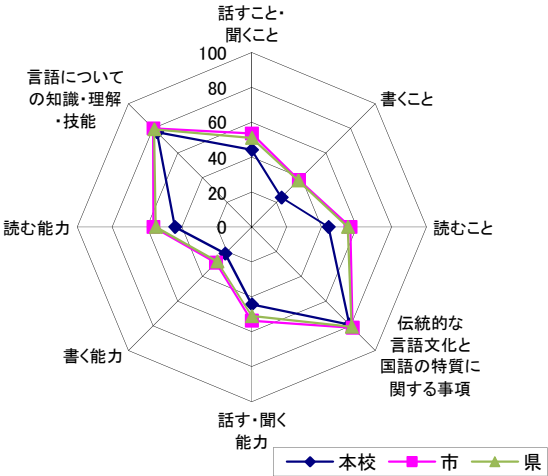
○ほとんどの教科に対して好きだと肯定的に捉え、また将来のために大切な学習だと考えていることが分かる。

●理科と社会の学習が好きかどうかの問いでは県の平均を下回っていた。理科や社会についての興味関心を高めていく必要があると思う。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.3	53.6	51.0
	書くこと	24.0	38.1	37.6
	読むこと	44.0	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.0	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	44.3	53.6	51.0
	書く能力	21.5	29.0	28.0
	読む能力	44.0	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	76.8	79.9	79.1



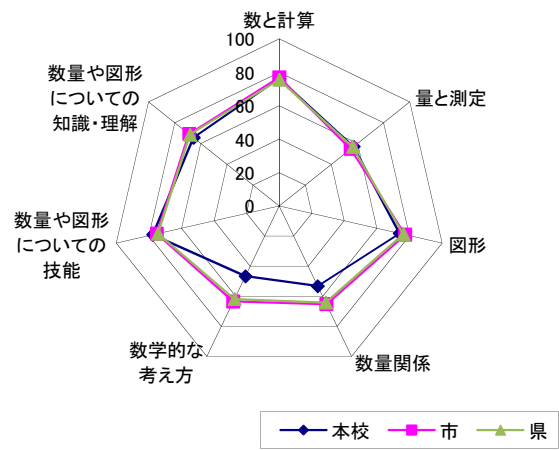
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●話し合いの内容の聞き取りでは、話し方の工夫に気をつけて聞くことができるかの問いでは、県平均を6ポイント上回る。しかし、「司会者の話し合いの進め方の工夫について」「理解して聞くことができていないか」の問いには、それぞれ自分の役割を考えて提案することに課題が見られる。	司会者の話し合いの進め方について、司会者や提案者の役割をそれぞれ果たしながら、いろいろな場面での司会や提案方法を学ばせたい。学級で話し合いや他教科等とも関連付け、児童の日常生活に生かすことができる場を設けるようにしたい。話し合いの中心に気を付けて進行し、互いの考えを整理して聞き取っていくことを児童に意識させるよう、司会や提案者の役割を多く経験させ、内容や方法について指導を工夫していきたい。
書くこと	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●発表するために調べたことの要点をまとめて書くことができるの問いには、県平均をわずかに上回る正答率であるが、与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことに対する問いには、段落ごとのまとまりを考えて表現する方法に課題が見られる。	日常的に書くことを行い、書く力を育てていきたい。その中に、自分の考えを理由づけて書くことを意識するよう指導したい。また、実用的な文章の試写を多く取り入れ、基本的な形式を整えることを指導し、相手や目的に応じた文章を書く力を身に付けさせていきたい。さらに、事柄のまとまりや順序が明確になるよう段落に区切って書くよう指導していきたい。
読むこと	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●説明文の内容理解に関しては、目的や必要に応じて、文章の内容を読んだり、段落相互の関係を捉えたりすることに課題が見られる。 ●物語文の内容理解においては、叙述をもとに、登場人物の気持ちを想像したり、各場面の様子を読み取ったりする設問の正答率が低くなっている。	授業中、説明文の指導では、中心となる語や文、段落相互の関係に注目してまとめたり、小見出しをつけたりするなどして内容を整理していくことを指導していきたい。また、物語文を読むときには、叙述をもとに状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する登場人物に気持ちを読み取らせたい。地の文や行動、会話などから関連した事柄を取り上げ登場人物の気持ちの変化を捉えさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●第3学年配当漢字を正しく読む・書くことにおいては、正答率が非常に低い。正しい漢字の読み書きの定着に課題がある。 ●言葉の学習において、慣用句の使い方や指示語の使い方の理解の問いの正答率が低い。	漢字の読み・書きの指導では、当該学年、その前の学年までに学習した漢字を宿題等で練習することを継続していきたい。熟語や意味と関連付け、普段から意識して使えるよう指導していきたい。 語彙力を上げる学習として、ことわざ、慣用句等、日常的な言葉について、教科書の中での使用法の確認と、その言葉を使った短文作りを行っていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.3	77.0	75.6
	量と測定	57.0	54.8	56.5
	図形	74.0	77.4	76.3
	数量関係	53.3	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	46.7	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	77.6	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	65.6	69.1	68.4



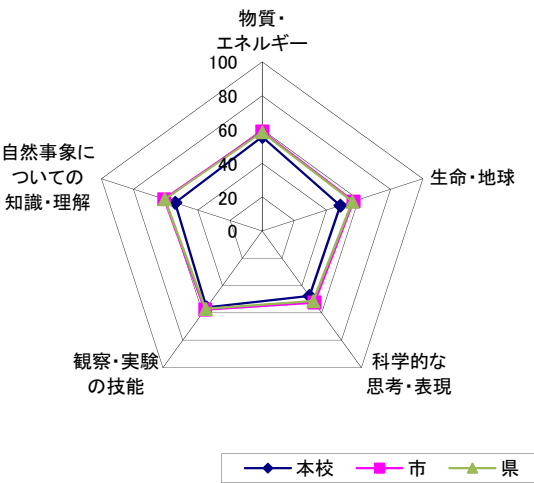
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県、市の平均と同等である。 ○整数のかけ算やわり算については、県の平均を同等、もしくは上回った。計算に関してはある程度の定着が見られる。 ●数直線上に示された分数を答える問いや、図を使って倍とわり算の文章問題にあった式を選ぶ問いにおいては、正答率が低く、県の平均を大きく下回った。文章を読み取り、必要な事柄を捉え、図や数直線で表すことに課題があると考えられる。	分数については、再度その意味を確認するとともに、基本的な計算について宿題等で習熟を図りたい。また、倍とわり算に関して、もともになる量が何なのかを図を描くことで内容を理解できるよう、授業中繰り返し指導したい。
量と測定	平均正答率は、県、市の平均を上回っている。 ○正方形の面積を求める問いや、身近にあるものの面積を推算する問いにおいては、県の平均を大きく上回っている。 ●角の大きさの見当をつける問いにおいては、角の大きさについての感覚に課題がある。角の大きさの見当をつける問いにおいては、平均正答率が56.0ポイントで県の平均74.0ポイントから大きく下回る。	角の大きさについては、角の計測を含め、再度丁寧に指導をしていきたい。また、角の大きさの見当についての感覚は、日頃から様々な場面で、身の周りの角を角度の単位を用いて表す活動を取り入れ、実感を伴って単位の大きさが理解できるよう指導の工夫を図っていきたい。
図形	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ○立方体の見取図から、辺と平行な辺を見つける問いでは、正答率が96ポイントとなっている。 ●四角形の対角線の性質に関する問いでは、正答率が36.0ポイントと、県平均の59.9ポイントより大きく下回る。四角形の対角線の理解において、課題が残る。	四角形の種類による、対角線の交点からの長さや対角線が作る交点の角度の関係を結び付け、特徴を理解させるため、作図から四角形の対角線の特徴と関係を1つずつ丁寧に理解させたい。
数量関係	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●文章問題における四則混合の式の立式や、折れ線グラフの読み取り、伴って変わる2つの数量を式で表す問いなど、思考力を要する問いについての正答率が低い。問題文の示す数字の意味を的確に読み取り、式に表すことに課題が見られる。	問題文をしっかりと読み、得られる情報を正確に理解する力を育てたい。そのために、文章問題では、「分かっていること」と「聞かれていること」に線を引いて、問題を理解してから四則計算のどれを使って解いたらよいかを考えることを徹底し、習慣化させたい。また、表やグラフが何を表すのか、数量の大小の変化の意味を捉えられるよう、授業中の確認を多くしていきたい。さらに、表やグラフを目的に応じて読み取る活動を意識して他教科と関連付け、調べる活動を増やしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.8	59.0	58.3
	生命・地球	48.7	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	47.6	52.5	51.4
	観察・実験の技能	56.0	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	54.1	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●空気や水の性質で、閉じ込めた空気を圧すときの空気の体積変化がわかること、水が氷になるときの温度変化がわかること、水は沸騰すると、水蒸気という気体の水になることの問いでは、空気や水のあたためり方や温度変化・気体変化についての知識の定着に課題が見られる。 ●光の強さと光電池の電気を起こすはたらきの関係から、実験結果を推測する問いでは、関連するものから事象を捉える力に課題が見られる。	空気をあたためたときの体積変化の学習については、グループごとに実験を行い、その様子を観察させたが、知識としては定着していなかったことが結果として表れた。実験を行ったら、結果を記録させるとともに、結果から分かることについてしっかり考察させ、知識としての定着を図るよう指導していくようにすることが必要であることがわかった。 また、水蒸気の学習では、水の気体変化の様子をじっくりと観察させた。しかし、現象の理解不足、知識の定着不足となった。観察したことを考察しながら記録するなど、実験結果の書き方を工夫させることで、水の気体変化を理解させることができたと考えられる。さらに、考察したことを、学級全体で交流させ、水の温まり方についての理解を深めることが必要である。
生命・地球	平均正答率は、県、市の平均を下回っている。 ●季節と生物のようす、天気のように水から水の蒸発についての問いの正答率は、県平均と比べ、大きく下回る。生物の1年間の成長のようすや、水の蒸発について自分の考えを記述する問題に課題が残る。 ●星座早見の利用の問いにおける正答率が低い。用具の使い方についての理解に課題が見られる。	1年間を通して、生物、植物の成長の観察を行ってきた。それらと季節、生き物の変化を関連づけて理解することが十分ではなかった。5年生での植物、メダカ、ヒトとの学習とのつながりを考え、もう一度確認を行いたい。生命のつながりを大切に今後指導していきたい。また、水の蒸発について、その現象を自分の考えで説明すること、記述することの課題に対して、今後は観察、実験を通して、児童が結果を整理、考察するときには、「蒸発」などの言葉を用いて、互いに自分の考えを説明し合う学習活動の場を取り入れるよう心がけていきたい。 星座早見については、再度指導し、その使い方を理解させることが必要である。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

＜5年学習や生活に関する質問＞

＜傾向及び今後の重点＞

○学習や生活に関する多くの質問において、5年生の肯定的回答の割合は、県平均と比べてほぼ同程度か、少し下回る。しかし、「自分の行動や発言に自信をもっている」「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた児童の割合は、県平均を大きく上回る。児童自身が自分の行動にはっきりとした目標をもって、数々のことに参加している様子が伺える。

●「家で、授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」と回答した児童の肯定割合が県平均を大きく下回った。なぜ学習するかの意義を日々伝えながら、学ぶ内容に興味関心をもてるような教材研究を行っていききたい。また、テスト返却後の活用法を児童に伝えとともに、家庭へも周知を徹底していききたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」では、「はい」、「どちらかといえば、はい」と回答している児童の割合が多い。児童の発達段階や教科の特性に応じて、教師が意図的・計画的に自分の考えを文章にまとめる指導に力を入れていききたい。

●「学校のきまりやマナーを守っている」、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の問いに対して、「いいえ」と否定的回答した児童の割合は、県平均を大きく上回る。学校全体の指導目標を具体化し、それらを学級において児童と話し合い、守るべききまりやマナーについて共通認識を図っていく。それをもとに学級経営を進めていくようにしていく。それと同時に、自分の役割を最後まで責任をもって取り組む大切さを、随時生活の中で紹介していききたい。

●「早寝・早起きを心がけている」、「自分は家族の大切な一員である」、「家の人と学習について話をしている」、「食事のとき、すききらいをしないで食べている」と回答した児童の肯定割合が県平均を大きく下回った。学校と家庭が連携して児童を見守り、指導していききたい。

＜5年教科等に関する意識＞

＜傾向及び今後の重点＞

○各教科等の「学習が好き」、「授業がわかる」と回答した5年生児童の割合は、ほとんどの教科において県平均に比べて高い。

●各教科等の学習に対する「好きである」、「将来必要だと思う」という回答の割合は、ほとんどの教科等において県平均と比べて高い。ただ、「道徳」に関しては、「好き」、「将来必要である」と回答している児童の割合が低い。普段の生活の中の様子や児童の実態に合った課題を授業で扱うようにしていききたい。もっと身近で切実感をもてるよう授業を工夫していききたい。

●各教科等が好きな割合に比べて必要感の割合が高いことから、教科独自の学ぶ楽しさと学ぶ意義を実感させる指導を継続させていききたい。